

(町並み版)

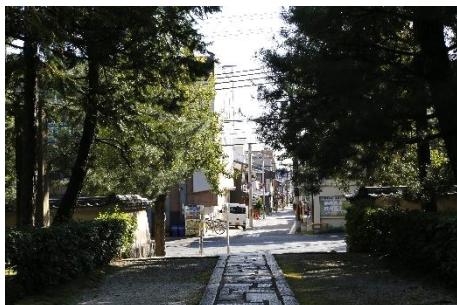
※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

1 大徳寺からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・大徳寺境内は広大で比較的平坦な地形で、周辺部には多くの塔頭等が立ち並ぶ。
- ・境内から周囲の建築物等が見える個所は非常に少ないが、北大路通沿いの高層建築物や、北側の標高の高い住宅地などが一部見える。



1-1 南門外から南への眺望
：北大路通を沿いの中低層建築物と智恵光院通の低層建築物が見える。



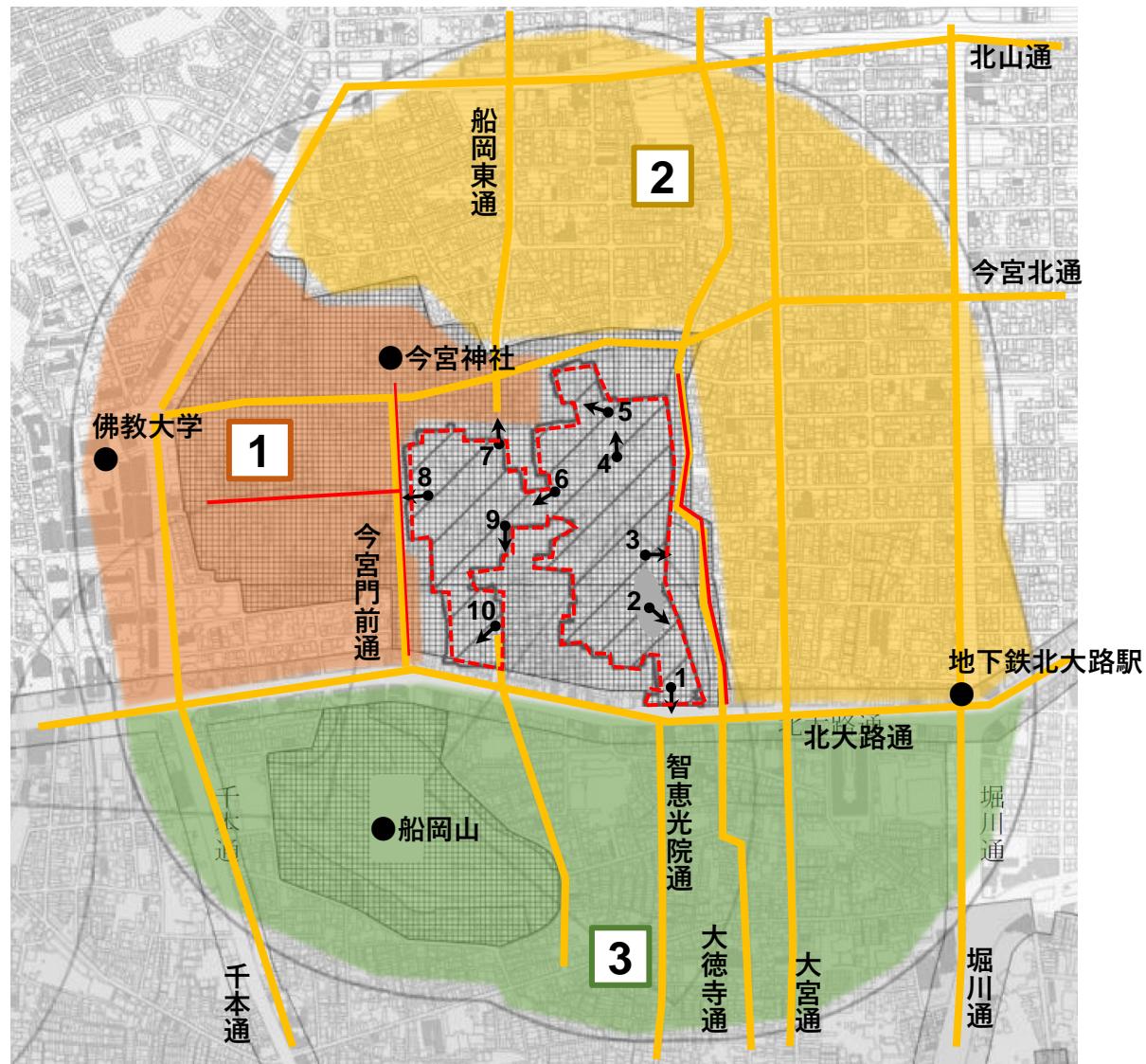
1-2 黄梅院前から東南への眺望
：北大路通に面するマンションの一部が見える。



1-3 総門から東への眺望
：大徳寺通に面して低層住宅が立ち並ぶ。



1-4 芳春院・如意庵前の門から北への眺望
：今宮北通沿いのマンションが見える。



 視点場（境内）
 視点場（参道等）
 主な通り



1-5 芳春院前から北西への眺望
：今宮神社の緑を背景に今宮通船岡東通交差点あたりの屋根が一部見える。



1-6 鐘楼前から西南への眺望
：周囲の建築物等は見えない。



1-7 境内北出入口から北への眺望
：船岡東通沿いの低層住宅が見える。



1-8 境内西出入口から西への眺望
：今宮門前通から西は傾斜地となっており、石垣、生垣と紫野高校が並ぶ。



1-9 高桐院前から東南への眺望
：土塀の奥に低層住宅が立ち並ぶ。



1-10 龍光院南門から南西への眺望
：龍光院の大屋根の向こうに北大路通沿いのマンションが見える。

2 大徳寺周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・大徳寺周辺は学校が多い文教地区で、落ち着いた住宅街でもある。
- ・今宮神社や船岡山など、地域のランドマークが点在している。
- ・大徳寺の緑豊かで広大な敷地が街路として開放されており、地域住民にも親しまれている。



2-1 今宮神社参道入口から北への眺望
：低層住宅等が立ち並ぶ落ち着いた町並み。



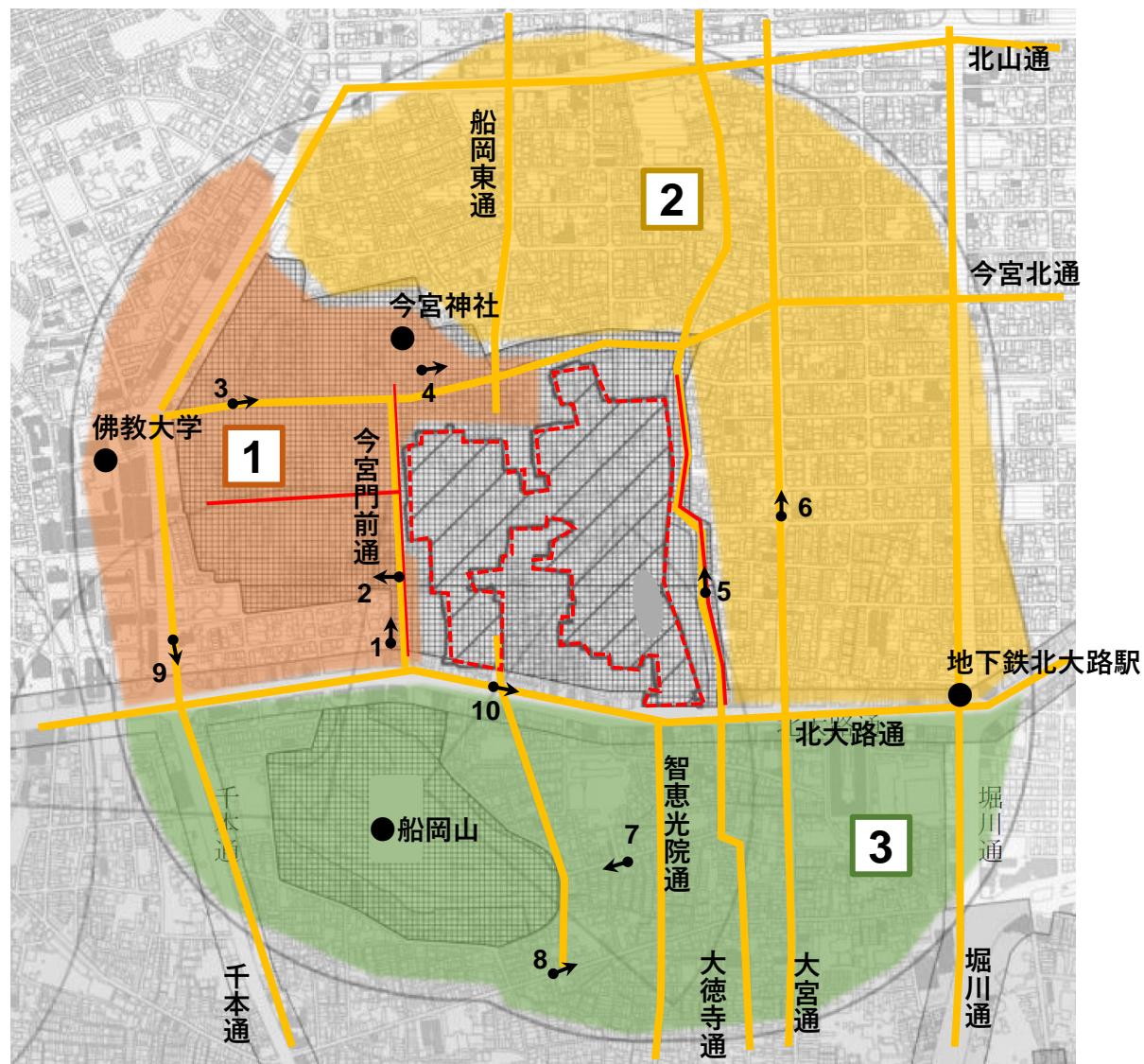
2-2 今宮門前通から西への眺望
：石垣、生垣を備えた緑豊かな低層住宅が立ち並ぶ。



2-3 紫野高校グランド北側から東への眺望
：東山を背景に植栽の多い落ち着いた町並みが続く。



2-4 今宮神社参道から東への眺望
：東山を背景に、今宮神社や大徳寺の緑と沿道の和風建築物や植栽が並ぶ。



 視点場 (境内)
 視点場 (参道等)
 主な通り



2-5 大徳寺通から北への眺望
：大徳寺の緑の向かいに町家が立ち並ぶ。



2-6 大宮通から北への眺望
：大宮商店街の低層の商店等が立ち並ぶ。



2-7 建敷通から西への眺望
：船岡山を背景に低層住宅が立ち並ぶ。



2-8 鞍馬口通から東への眺望
：低層の商店や住宅が立ち並ぶ。



2-9 千本通から南への眺望
：中低層のビルや住宅が立ち並ぶ。



2-10 北大路通から東への眺望
：中高層建築物と京町家が混在する町並み。

3 大徳寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 大徳寺西側

ア エリアの歴史等

- ・紫野は平安期からの地名で洛北七野の一つであり、天皇や公家が狩猟に興ずる地であった。平安期創建の今宮神社や鎌倉期創建の大徳寺の門前町として発展した地域である。
- ・大徳寺以西、今宮神社以南は茶畑として耕作されていたところもあるが、ほとんどが笹地と広葉樹が茂る常緑樹林であった(図3-1)。
- ・昭和初期に北大路通の築造と区画整理がなされたが、本地域が開発されるのは太平洋戦争後であった。北大路通や千本通の沿道は商家が並び、その他は住宅地に転じた。

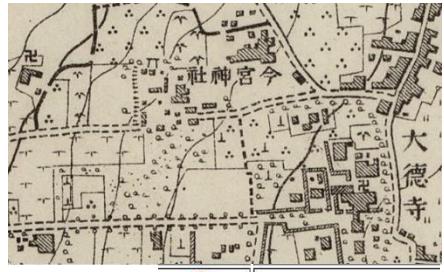
イ 町並みの特徴

- ・今宮神社参道でもある今宮通には大徳寺の土塀や大きな木立が続き、北大路通からもはるか先にある木立や社殿が見わたせる。京町家が残る歴史的風情のある通りである。
- ・今宮神社では地域に根差したやすらい祭が行われる。
- ・孤蓬庵へ通ずる道は石畳が続き、緑が生い茂る美しい道となっている。西向寺、来光寺、孤蓬庵などの寺院により、落ち着いた町並みとなっている。
- ・佛教大学や小中学校、高校などの中高層建築物は、緑地に配慮されたゆったりとした敷地構成となっている。
- ・南側の北大路通までの地域は住宅地となっている。低層の落ち着いた家並みであり、各家の植栽や外構にも配慮が見られる。
- ・千本北大路付近には、公共施設や公営住宅が立ち並ぶ。

文化財等：今宮神社

ウ 景観形成方針	風致地区	大徳寺周辺特別修景地域	山並み背景型建造物修景地区
	大徳寺及び今宮神社の境内地の濃い緑の保全とともに、大徳寺道の伝統的町家の家並み、今宮神社の東側門前で向かい合う名物のあぶり餅屋や南側門前の大徳寺等の豊かな緑が織りなす門前の景観に配慮する。	大徳寺境内の緑と伝統的町家とが一体となった門前の景観を保全する。	北山周辺は、身近に北山と東山を眺望することができる閑静な住宅地である。
エ 建築計画等に求める配慮事項		今宮神社門前は、名物餅屋一帯の景観を保全する。それより東の地区は、生垣や樹木による修景や建物の和風基調による修景を行う。また、南門正面の参道では、和風外観による修景を行う。	建築物は背景の山並みに調和するよう、勾配屋根を設置、屋上のデザインと壁面の色彩等に配慮する。大徳寺、今宮神社等の歴史的資産と調和した町並み景観の保全、創出を図る。

参考写真等



凡例

	茶畑
	広葉樹林(こよしじりん)
	ハイマツ地
	笹地(ささち)

3-1 「京都」明治22年(1889)



3-2 今宮神社参道(今宮門前通)



3-3 自然に囲まれた孤蓬庵に続く石畳の道



3-4 千本通の町並み

2 大徳寺北側～東側

ア エリアの歴史等

- ・本地域は平安期創建の今宮神社や鎌倉期創建の大徳寺の門前町として発展した地域で、江戸期から大宮村として周辺10ヶ村を包括する村域であった(図3-5)。堀川などの河川により灌漑に恵まれ、街路が上賀茂方面と千本通鷹峯方面に縦横に走り交通も至便であった。
- ・昭和初期に北大路通の築造と区画整理がなされ、京都市電が走り始めると大宮通に商店街の原型がで始める。太平洋戦争後に北山通が築造され大宮通が市中から北に一直線に繋がると、北大路通から以北は新大宮通と呼ばれ新大宮商店街が誕生した。
- ・今宮神社の東門は楼門が大正期に完成するまで表門であったが、門前の旧参道にある茶屋の創業は長保2年(1000)と伝わり、日本最古の飲食店とされる。

イ 町並みの特徴

- ・今宮神社周辺は、門前の風情を残す。
- ・エリアの北側は住宅や京町家、古民家等が点在している。洛中の町家に比べると間口の広い大規模な民家が見られるのが特徴である。
- ・大徳寺の東側には古くからの老舗店舗や料理屋、土産物屋が並ぶ。大宮通は古くからの個人商店が並ぶ新大宮商店街となっており、賑わいを呈する。高層建築物はなく、大徳寺の敷地に茂る大木がどこからも良く見える。
- ・堀川通沿いは商業ビル、商店などが連なる。

文化財等：荒木家住宅(旧林家住宅)

ウ 景観形成方針	山並み背景型建造物修景地区	風致地区	大徳寺周辺特別修景地域
	北山周辺は、身近に北山と東山を眺望することができる閑静な住宅地である。	大徳寺及び今宮神社の境内地の濃い緑の保全とともに、大徳寺道の伝統的町家の家並み、今宮神社の東側門前で向かい合う名物のあぶり餅屋や南側門前の大徳寺等の豊かな緑が織りなす門前の景観に配慮する。	大徳寺境内の緑と伝統的町家とが一体となった門前の景観を保全する。
エ 建築計画等に求める配慮事項	建築物は背景の山並みに調和するよう、勾配屋根を設置、屋上のデザインと壁面の色彩等に配慮する。大徳寺、今宮神社等の歴史的資産と調和した町並み景観の保全、創出を図る。		建築物は、軒の連なりに配慮した和風外観を基調とする。

参考写真等



3-5 實地測量京都市全圖 明治35年(1902)



3-6 古民家が残る大徳寺敷地北側の道



3-7 新大宮商店街

4 大徳寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

3 大徳寺南側		参考写真等		
ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none"> ・船岡山西麓付近は蓮台野と呼ばれた葬送の地であった。それに至る道に千本の卒塔婆が建てられていたことが千本通の起こりという。図3-8では千本通沿道や船岡山南の集落が確認できる。明治元年に京都府に所属。明治13年(1880)船岡山に建勲神社が遷座される。 ・西陣の機業地に隣接していたため、明治中期以降は西陣機業の進出が目立ち、準工業化していった。 			
	<ul style="list-style-type: none"> ・北大路通沿いには比較的新しい建築物が連なる。南東部には工場や事業所などが点在する。 ・鞍馬口通には町家を活用した個性的な飲食店などが見られる。 ・建勲神社がある船岡山は、大徳寺南西一帯で大きな面積を占め、豊かな緑が季節ごとの自然景観に寄与している。自然石の擁壁や各家の緑化なども景観的保全の一部を担っている。船岡山山頂からは京都市内全域が見渡せ、中腹からは、木立ちの中から大徳寺の山門が遠望できる。 ・南側にある船岡温泉など、市中にありながら昔の風情を残す建築物が親しみをもって地域に溶け込んでいる。 ・全体に歴史と自然のバランスがとれた町並みである。 <p>文化財等：船岡温泉、旧藤ノ森湯、宮本家住宅、船岡山(史跡)</p>			
イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・北大路通沿いには比較的新しい建築物が連なる。南東部には工場や事業所などが点在する。 ・鞍馬口通には町家を活用した個性的な飲食店などが見られる。 ・建勲神社がある船岡山は、大徳寺南西一帯で大きな面積を占め、豊かな緑が季節ごとの自然景観に寄与している。自然石の擁壁や各家の緑化なども景観的保全の一部を担っている。船岡山山頂からは京都市内全域が見渡せ、中腹からは、木立ちの中から大徳寺の山門が遠望できる。 ・南側にある船岡温泉など、市中にありながら昔の風情を残す建築物が親しみをもって地域に溶け込んでいる。 ・全体に歴史と自然のバランスがとれた町並みである。 <p>文化財等：船岡温泉、旧藤ノ森湯、宮本家住宅、船岡山(史跡)</p>			
	<p>3-8 「都名所図会」 安永9年(1780)から 「船岡山/雲林院/連臺寺」</p> <p>3-9 建勲通から西(船岡山)への眺望</p>			
ウ 景観形成方針	船岡山周辺特別修景地域	旧市街地型美観地区	沿道型美観形成地区	
	船岡山及びその南側の住宅地では、船岡山の豊かな景観との調和を図る。	京町家や社寺党の歴史的建造物や緑とが調和する景観特性を継承する。	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないように、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する	
エ 求める配慮事項	<p>十分な敷地内緑化を図る。擁壁等を設ける場合は、自然景観に配慮した素材を使用する。</p> <p>建築物は勾配屋根を設け、道路に面して空地を設ける場合は門や塀、生垣等を設置すること等により、京町家や社寺との連続性に配慮し、町並み景観の保全、創出を図る。</p>			
<p>3-10 船岡山中腹から大徳寺山門の眺望</p> <p>3-11 自然石の擁壁や生垣などが続く住宅地</p>				

- 3-1 「京都」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-5 「實地測量京都市全圖」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-8 「都名所図会」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)